

みちのく ワイド

高齢化が進む団地

その芋煮会は、奇妙だった。福島市郊外の蓬萊団地の一角。10月中旬、早朝から町内会役員7人が集会所の近くの広場で準備を始め、巨前には大鍋4杯、100食分ができた。女性役員が「芋煮ができあがった」と近所のドアをノックし

て回り、小鍋を手にした人たちが続々と集まってきた。

芋煮会は持ち帰り式

「ごめんね、手伝いもしないで、和やかに小煮が始まると思ったら、人々は芋煮をよそい、家族分の缶飲料を持って、自宅へ去った。「寂しいわね。みんなでおしゃべりすればいいのに」。伯井りんさん(83)は言う。自分が町内会長だった5年前は、大鍋を囲んで話す人も多かった。が、最近では「持ち帰り方式」が定着。見知らぬ人が増え、月に一度のお掃除の日に参加しない世帯も増えた。

蓬萊団地は約4千世帯、1万3千人が暮らす。造成から40年。住民は年を重ね、付き合ひも疎くなった。独り暮らしの高齢者世帯の比率は約7

%

崩れかける支え合い

(2009年、福島市調べ)。首の、難しさの一因だ。同じく民生委員の横田浩司さん(44)は「町内会などの連携が大事だが、どの家が独り暮らしか町内会が把握していない」と話す。情報が共有しようにも「個人情報の壁」が立ちほだかる。民生委員には個人情報の守秘義務がある。

個人情報の共有に壁

奥倉イロさん(86)は今夏、独り暮らしの自宅で突然、目の前がぐるぐる回り、気持ち悪くなった。かかりつけの医者に電話すると「すぐ救急車を」。単なる脱水症状で命に別条はなかったが、「いま考えると、本当に怖い」。

奥倉さんを担当する民生委員の丹治一美子さん(66)は「独居高齢者の見守りは難しい」と言う。訪問を拒否する高齢者も少なくない。「私たちが出入りすると、「何だろう」と近所に好奇の目で見られるからと断られたこともある」と明かす。心配される側が「大きなお世話」と感じ

る。難しさの一因だ。同じく民生委員の横田浩司さん(44)は「町内会などの連携が大事だが、どの家が独り暮らしか町内会が把握していない」と話す。情報が共有しようにも「個人情報の壁」が立ちほだかる。民生委員には個人情報の守秘義務がある。

今年の夏は、記録的な猛暑とともに、「不明老人」が少なからず発見したことで苦い記憶が残る季節だった。家族がお年寄りの支え手としての機能を失いつつあり、町内会やコミュニティーも、昔のような密な関係が崩れかけている。加速的に進む高齢化の中で、支え合いの体制をどう立て直せばいいのだろうか。



加速する高齢・単身化 65歳以上高齢者の独り暮らしは463万世帯(厚生労働省、2009年推計)で、1998年の272万世帯のほぼ2倍。夫婦だけの世帯は599万世帯。高齢世帯に占める割合は、それぞれ23%、30%で、計5割を超えた。独り暮らしの内訳は男性28%、女性72%。東北の高齢独り暮らし(07年)は宮城県6万2千世帯、福島県5万2千世帯が多い。

誘える友人少なく、(記者の目) 敬遠の気持ち理解

「独りになると男は特に弱いんですよ」。蓬萊団地で出会った男性(87)がつぶやいた。妻を失った7年前に酒をやめた。夜、一人で飲むとやりきれない。立ち直れない友人を何人も見た。「先立たれるとこたえる」。記者は間もなく55歳。休日に単身の部屋にいと、食事に出るのもおっくうになる。考えてみれば、職場以外にお茶に誘える友人もない。さて定年退職したら？

たった3軒とはいえ、結構な遠距離。自転車ですら汗だくになった。民生委員の高齢者調査に同行したときのことだ。「元気じゃないとできないよ」と話した民生委員は60代。25歳の私もそう思った。高齢者の見守りを任されている民生委員も町内会役員と同様で、なり手は少ない。蓬萊では平均約60歳。定年退職した人を探し、引き受けてもらうのがほとんどだ。ただ、担い手不足を指摘した私も「会社勤めで時間がない」から、町内会役員や民生委員を引き受ける自信がない。担い手不足の要因が、悪いと感じながら「直接かかわるのは……」と言い訳を考える住民心理にあることは確かだと思う。(村上昇一)

「これで少しは安心して暮らせればいいのだが、年をとると、みんな引き(も)っちゃって」。町内会と民生委員だけでは、高齢化を支えきれなくなった。蓬萊団地では03年、従来組織に頼らずに団地の暮らしを守り、コミュニティーの再構築を掲げる「NPOはつらつ」ができた。高野弘志副理事長(53)は「町内会には必ずしも機能していない」と語る。これまでに団地に無料の循環バスを走らせた。介護予防の講習会を開いたりした。だが、成果は十分ではない。「お役所に何かしてもらって意識が住民に強く、自分たちの手で切り開いていこうと考えている」。次回(11月下旬)、「建設業の転

見守り携帯呼びかけ

東京都新宿区の戸山団地(約2300世帯)は1948年に造成がスタートし、ほぼ60年過ぎた。20年前から高齢化が進むが、当初からの入居者のほとんどは80歳超。「ここはね、高齢団地と言われる所の10年、20年先の姿ですよ」。住民の一人、本庄有由さん(72)は言う。自治会は3年前に解散。最近では死後数日たって発見される「孤独死」の現場に立ち会えることもある。団地前の広場には、屋敷も人影はまばらだ。

今年から、本庄さんが会長のNPO法人が、「見守り携帯」の利用を呼びかけている。朝一番に携帯を開けば、自動的に登録先に元気なことを知らせる機能などがついている。